



ロータリー：  
変化をもたらす



# 守口ロータリークラブ 週報 No.15



2017-18 RIテーマ

経済と地域社会の発展月間  
米山月間

本日のピアノ演奏

本日は地区大会の為、ピアノ演奏はありません。

**本日例会 2017年11月11日(土)**  
**(第2737回)**

「2017~2018年度地区大会」  
11月10日(金) 帝国ホテル  
11月11日(土) NHKホール大阪  
担当：会長・幹事

**次回例会 2017年11月22日(水)**  
**(第2738回)**

「 」

担当： 広報雑誌・会報委員会

出席報告			
例会日	出席(名)	欠席(名)	出席率
11月08日	31 (内免除者1名)	14	66.67%【会員43名】
10月25日	35 (内免除者1名)	メイクアップ3名 (83.33%)	



## 前回例会 (2736回) 11/08の主な内容



- ◎幹事報告 (幹事 井上 智裕)
- 11月11日の地区大会の出席のお願い
  - 11月15日の例会は移動例会の為休会
  - 「ダメ・ゼッタイ」募金額は、19,039円ありました。
  - 2018年度のカレンダー入用の方は持ち帰り下さい。



- ◇◇◇委員会報告◇◇◇
- 親睦活動委員会 (中道委員長)  
家族親睦日帰り旅行のご案内  
日程：12月9日(土)  
場所：夕日ヶ浦温泉 (丹後半島)  
参加費：会員15,000円 家族10,000円
  - ◇◇◇委員会だより◇◇◇
  - 第3回選考委員会  
日時：11月8日(水) 13:40~  
場所：「事務局」出席：8名  
議題：次々年度会長・次年度理事・役員選任の件
  - ◇◇◇青少年奉仕・  
ローターアクト委員会だよ◇◇◇
  - 日時：11月8日(水) 11:30~  
場所：「事務局」出席：名  
議題：守口市中学生スピーチコンテストについて  
・ローターアクトクラブ2018~2019年度について

◎会長の時間

(会長 大野 智子)

卓 話

「お葬式のはなし」

クラブ研修委員会  
佐治 信隆 会員



(～本文は、次ページに掲載～)



仏教の葬儀について述べます。

仏教では人間の根源的な苦を四苦として説かれています。誰もが避ける事が出来ない苦しみ、それが「生老病死」です。生まれた時から日々死に向かって進み続け、その過程で老い、病を患い、死が訪れるという苦しみです。



私たちはいつか気がつかない間に老人になっていきます。若い人はやがて老人になると言っても楽しい青春時代を謳歌している若者は理論としてはわかってもらいごととしか受け取れないでしょう。絶対であるのは必ず私は死んでいかねばならないという事実です。押んで金が儲かる病気が治るは保証できません。しかし、今、この世にいる者は必ず死んでいきます。これだけは絶対保証致します。



ブッダ(お釈迦さん)は何一つ不自由のない一国の王子として育ちましたが、この四苦について深く苦悩されました。そして、29歳の時に出家をせられ6年間の修行によって30歳で成道(お悟り)されました。その悟りの内容を多くの苦悩する人々の為に説こうと決意して、現在のインドの北から南にガンジス川にそって托鉢の旅を続けておられました。釈迦の教えを聞いて感動した鍛冶屋のチュンダが食物の御布施を差し上げます。



それを食べた釈迦は食中毒にあたり、自分の最後を覚り、今度はわが生まれ故郷に帰ろうと北に向いて最後の旅をされるのです。そしてクシナガラという村に着いた時には、歩行もままならず沙羅双樹(さらそうじゆ)の林でからだを横たえられ、静かに死を待っておられました。お弟子たちは最後の説法を懇願します。そして有名な釈迦最後の説法を説かれます。「自らを灯として他によることなかれ、法を灯として他によることなかれ」と、そして頭北面西右脇臥(づほくめんさいうきょうが)の姿勢で入滅されました。

ニコニコBOX S・A・A

(～本文続きは、次ページに掲載～)

石津 会員 ネットタイ忘れてしまいました。それといろいろご迷惑をおかけしております。申し訳ございません。

石井 会員 先週5日、守口市市民まつりではクラブ行事に参加出来ず、お詫びとして。

大野 会員 ○市民まつりでは早朝より多くの会員の皆様にお世話に成り有難うございました。無事終了致しました事に感謝です。

○住之江競艇場で三連単(1.2.3)での配当です。

石谷 会員 例会欠席のお詫びです。

11/08 ニコニコBOX 551,040円



四つのテスト

●言行はこれに照らしてから ①真実かどうか ②みんなに公平か ③好意と友情を深めるか ④みんなのためになるかどうか

## ◎会長の時間

今週の会長の時間は幸運についてお話させて頂きませぬ。

世の中には宝くじに当たったり、競馬、競輪、競艇で大穴を当てたりする人がいると思えば、何をしてもついてない人がいます。何か原因があるのでしょうか。

そこで、「運」について書かれた本を読んでみました。それによりますと、幸運に恵まれるには、一般的には表現ですが、「幸運の女神」を微笑ませれば良いというのです。このため、「幸運の女神」の性格を知ることが先ず必要になります。

「幸運の女神」は謙虚な人を好むと言われています。傲慢な人を嫌うのです。そこで、謙虚な人がまづ候補に上がります。

しかし、これだけでは不十分なのです。「幸運の女神」は朗らかを好みます。したがって、「謙虚で朗らか」が幸運の条件になります。不幸にして「幸運の女神」を怒らせてしまった場合はどうでしょうか。幸いな事に「幸運の女神」は忘れっぽいので、ちゃんとした態度をとれば、再び幸運が訪れるとされています。

さて、一度幸運が訪れたら、この状態を長く続けたいものです。それには、惜福、分福、植福を行えばいいと言います。

惜福というのは、せっかく手に入れた福を浪費しないで、少しずつ使うということです。

分福というのは、手に入れた幸せを独り占めにしないということです。

植福とは、福の種をまいておく事だそうです。例えば、マイクロソフトのビルゲイツはロータリーのポリオに多額の寄付をしておられますので、幸せが続いているようです。守ロータリークラブの皆様も、幸せが長く続きますように、ニコニコ、ポールハリスフェロー、米山などの寄付をしてくださることをお勧めします。

私にも3つの大きい、幸運が今までにありました。

(1) 10年前の事です。大学の友人に誘われて、淀競馬場に行ったときの事です。4人で行きました所、私は馬の姿、形、お尻を見て、100円を5枚買いました所、その中の一枚が34,700円の当たりました。誰も信じてくれませんでした。帰りに4人で京都で食事をして全部使い切りました。

(2) 三重県の富士カントリーの開場杯に、行った時の事です。多くの人が参加されていました。私もたまたま上位に入りましたので、理事長が幸運のクジを引いて下さり特賞のアメリカ西海岸8日間とゴルフ3日間の旅が当たりました。タイガーウッズが良く来るコースで3日間プレーが出来、ディズニールランド観光やその他の観光地を回る幸運に恵まれた楽しい旅が出来ました。

(3) 最近では幸運にも住之江競艇場へ行った時、3連単(1.2.3)で100円券で1,040円が当たりました。当たると言う事は嬉しい事です。これからは分福を考えて行きたいと思っております。

## 卓 話

(～前ページからの続き～)

その夜、弟子たちは静かに法語をして過ごしました。これが通夜です。人間の形をとどめている最後の夜だから先人は大切に一夜を過ごしたのです。夜が明けるとアヌルッタはアーナンダに静かに言いました。「マッラ族の人々にブッダの入滅を告げ、告別のために来るよう伝えてほしい」ブッダが入滅の間近に、葬儀は在家信者に任せ、出家者はこれに関わらず修行に精進するようにと言ったためです。

アーナンダが一人の従者と共にブッダ死を告げると、マッラ族は嘆き悲しみましたが、ブッダの葬儀を行うために、多量の香、布、花輪、楽器を持って沙羅双樹へ向かいました。マッラ族は、ブッダの遺体を真新しい布で幾重にもくるみ、真新しい麻布で包むと、棺桶に入れ、積んだ香木の上に安置しました。その上に天幕を、張り香を、焚き、花を捧げ音楽を奏でて供養しました。これが葬儀です。生前にブッダから聞いた尊い教えによって自らが救われたという謝恩の思いが最後の奉仕となって尽くすこと。それが葬儀なのでしょう。

宗教を否定するということは、人間を物質としか見ないのではないのでしょうか。物体が停止したから、ゴミと一緒に後は焼くだけ。そして「お骨もありません」です。

ブッダは入滅6日後、遺体はクシナガラのあるマクタバナダナ廟に運ばれ荼毘にふされることになりました。

ブッダの遺骨はクシナガラの会議場に安置され、さらに7日間、香を焚き、花を献じ、楽を奉じて供養されました。我々もブッダと同じく病が重くなって、やがて死を迎えます。

葬儀は生前の個人に感謝して心が静まると言われる香を焚いて、送る者のしおれる心を華やかな花の美しさにひかれて葬送すると言う事でしょう。

現在日本では、ほぼ100%が火葬です。ブッダも遺体は火葬にして、各地に分骨しています。宗教、仏教を尊崇するものは教典を抛り所とします。キリスト教を信じる者はバイブル(聖書)を抛り所とします。

お人が亡くなると頭を北にお寝かせします。これはお経に、ブッダが頭北面西右脇臥(づほくめんさいうきょう)の姿で亡くなられた最後の姿であると書いてあるからです。この西向きということが、お浄土は西方のかなたにあるということの根拠になっています。

この世は穢土(えど)即ち欲望、苦悩が次から次にと湧き起こってくる穢れた世界である。それに対して呼吸が止まって一切の欲望から解き放たれた清らかな世界、それをお浄土と云ってあります。

すなわち、死ぬことを死有(しう)といい、今自分のいる穢土から今度は新たな世界、お浄土に生まれることを生有(しょう)といいます。そこに往くには、49日間かかります。死有から生有に至る期間を中有(ちゆう)といいます。

その中有の字が変化して陰となり、中陰(ちゆういん)というようになりました。お人が亡くなって中陰の初めての7日目を初七日といい、一週間ごとに二七(ふたなぬか)、三七日(みなぬか)と読んでいき、七回のお勤めを積んでいき、49日になったことを満中陰(まんちゆういん)と言います。